【禁無断転載】

受験番号

第45回コンピュータ会計能力検定試験
問　題　用　紙

1　級

（令和4年12月10日施行）

問題用紙は回収します。持ち帰り厳禁です。

CD-ROMは持ち帰りができます。

解答用紙は，問題用紙にはさみ込んでありますので，試験担当者の指示にしたがって，抜き取ってください。

注　　意

・試験開始の合図があるまで，問題用紙は開かないでください。
・この試験問題は，全部で５ページです。
・この試験の制限時間は２時間です。
・解答は，問題の指示にしたがい，すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。
・解答用紙の所定の位置に，試験会場，氏名，受験番号を必ず記入してください。記入もれがある場合には採点の対象とならない場合があります。
・印刷の汚れや乱丁，パソコン機器の不具合等で必要のある場合は手をあげて試験担当者に合図をしてください。
・試験開始後，問題の指示にしたがって，CD-ROM に保存されている会計データをパソコンにリストアしたり，Excel シートを開いてから処理をおこなってください。
・電卓の使用を認めます。

主　催　公益社団法人　全国経理教育協会
後　援　文　部　科　学　省

資　金　管　理

第１問　ゼンケイ物流株式会社では，＊１年度下半期（10 月１日～３月 31 日）の月別予算資金繰り表を作成する。いま，予測資料にもとづき，原案を作成している。Excel ファイル「EX1」の月別予算資金繰り表を完成し，下記の設問に答えなさい。(20 点)

＜付記事項＞

１．各月における現金収支に関わる項目（予測）は下表のとおりである。

（単位：円）

	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
売　上　高	78,073,000	63,714,000	75,676,000	91,258,000	64,822,000	86,773,000
仕　入　高	39,886,000	44,814,000	47,325,000	51,739,000	40,533,000	48,805,000
人　件　費	6,921,000	8,597,000	12,734,000	8,892,000	6,929,000	7,944,000
営業経費	18,196,000	19,429,000	21,078,000	22,356,000	17,128,000	23,735,000
有価証券売却	654,200	663,300	813,400	550,300	700,700	689,300
備品購入額	1,000,000	0	0	3,000,000	0	2,000,000
短期借入	3,457,000	3,279,000	6,232,000	3,030,000	2,336,000	5,526,000
借入金返済	2,795,000	3,002,000	2,872,000	3,162,000	2,342,000	12,426,000
支払利息	59,300	58,400	102,600	61,600	57,200	101,200
売掛金／売上高	45%	60%	58%	56%	53%	52%
買掛金／仕入高	51%	46%	49%	47%	47%	50%

２．売掛金は翌月回収，買掛金は翌月支払であり，表の下２行は，各々の月の売上高に占める掛売上の割合，仕入高に占める掛仕入の割合を示している。10 月分の回収額・支払額については Excel ファイル「EX1」の月別予算資金繰り表シートに入力済みである。

３．営業経費は現金支出のみである。

４．10 月の月初現金残高は，7,322,000 円である。

＜設　問＞

以下１～５について解答欄に記入しなさい。

１．10 月の経常収支過不足額。

２．経常収支過不足が不足となるのは何月か。該当する月をすべて答えなさい。

３．設備等収支過不足，財務収支過不足がともに不足となるのは何月か。該当する月をすべて答えなさい。

４．２月の収支過不足合計。

５．３月末の現金残高。

利　益　計　画

第２問　株式会社フジの上半期の実績データから下半期を予測し，下記の設問に答えなさい。(20 点)

＜付記事項＞

１．会計期間は４月１日より翌年３月 31 日である。上半期（４月１日から９月 30 日まで）の実績会計データは，会計ファイル（株式会社フジ）に入力済みである。

２．予測は下半期利益予測表を使って行うこと。なお，この表のフォームは Excel ファイル「EX2」に入力済みであるが，必要に応じて編集して使用すること。なお，予測する上で生じる円未満の端数は，セルごとに四捨五入すること。

３．10 月から翌年３月までの会計データを予測するにあたって考慮すべき事項は，以下のとおりである。

(1) 売上高および売上原価は，上半期の実績値の月平均額に対して下表の割合で推移すると予想される。

月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
割合	105%	100%	108%	110%	98%	110%

(2) 12 月に賞与が支給されるが，６月の実績値の 110%を支給予定である。

(3) 翌年１月に車両運搬具の買い換えを予定している。そのため，１月以降は減価償却費の月割り額が 220,000 円となる。なお，この買い換えにより，１月に 310,000 円の固定資産売却損が計上される。

(4) ２月に預金利息の受け取りがあるが，30,400 円と予想される。

(5) 支払利息は 10 月以降も毎月９月までと同様の金額が予定されているが，11 月に 4,000,000 円の借り入れを予定しているため，11 月以降の支払利息は下表の金額の加算が予想される。

月	11 月	12 月	１月	２月	３月
支払利息	14,200 円	13,980 円	13,620 円	13,390 円	13,110 円

(6) 賞与と減価償却費以外の月々の販売費一般管理費は，上半期月平均額が発生するものとする。

＜設　問＞

下半期利益予測表を完成し，以下１～５の金額を解答欄に記入しなさい。

１．12 月の営業利益。

２．１月の税引前当期純利益。

３．２月の経常利益。

４．販売費一般管理費の下半期合計額。

５．税引前当期純利益の年間合計額。

第３問 株式会社ミナモト工業は，４種類の製品Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄを製造・販売している。それぞれ，材料Ｐと材料Ｑを消費し，同一の作業員によって加工されている。また，同社の損益計算は毎月おこなわれており，月初仕掛品は無く，完成品はすべて販売されると仮定している。下記の設問に答えなさい。(20 点)

＜付記事項＞

１．材料Ｐの単価は 240 円/kg，材料Ｑの単価は 200 円/kg である。
製品ごとの単位当たり消費量は下表のとおりである。

	製品Ａ	製品Ｂ	製品Ｃ	製品Ｄ
材料Ｐ	2.0kg/個	2.5kg/個	2.5kg/個	2.0kg/個
材料Ｑ	1.5kg/個	2.5kg/個	3.0kg/個	3.0kg/個

なお，月間の最大調達可能量は，材料Ｐ，材料Ｑともに 5,000kg である。また，各材料費は変動費である。

２．工員の賃率は一律 600 円/時である。製品単位あたりの作業時間は，製品Ａが 1.5 時間/個，製品Ｂが 3.5 時間/個，製品Ｃが 2.5 時間/個，製品Ｄが 2.5 時間/個である。なお，月間の最大作業時間は４製品合わせて 5,500 時間である。また，この工員の賃金は変動費である。

３．製品の販売単価は，製品Ａが 3,000 円/個，製品Ｂが 5,000 円/個，製品Ｃが 6,000 円/個，製品Ｄが 4,000 円/個である。また，月間の最大販売量は，製品Ａが 800 個，製品Ｂが 1,000 個，製品Ｃが 450 個，製品Ｄが 500 個である。

４．上記以外の製造原価（固定費）は月間 600,000 円，販売費および一般管理費（すべて固定費）は 1,200,000 円である。

＜設　問＞

１．付記事項の条件下で，各製品の月間販売量を製品Ａが 600 個，製品Ｂが 700 個，製品Ｃが 300 個，製品Ｄが 400 個と見積もったとき，全製品を合わせた(1) 売上高と(2) 安全余裕率（％表示で小数第１位を四捨五入した整数）を求め，解答欄に記入しなさい。ただし，本問は Excel の「ソルバー」を用いずに計算できる。

２．付記事項の条件下で，全社の限界利益を最大にする４製品の販売量の組み合わせを求め，解答欄の(1) に製品Ｃの販売量，(2) に４製品（全社）の限界利益合計，(3) に４製品（全社）の営業利益率（％表示で小数第１位を四捨五入した整数）を求め，それぞれ記入しなさい。ただし，Excel の「ソルバー」を用いる際に，解を表示するセルの値を整数とするための制約条件を定義し，解決方法の選択には「シンプレックスＬＰ」を指定するとともに，その「オプション」で「整数の最適性（％）を「0」と指定すること。

第４問　神田工業株式会社では，製品Ｋについて来期の利益計画を策定している。下記の設問に答えなさい。(20 点)

＜付記事項＞

１．製品Ｋの販売単価は 21,000 円/個である。

２．判明している製品Ｋの原価構成は下表のとおりである。

直接材料消費単価（円/kg）	1,100
単位あたり直接材料消費量（kg/個）	2
賃率（円/時）	1,150
単位あたり直接作業時間（時/個）	2
確定している固定費（円）	800,000

３．製造原価のうち，間接労務費は変動費部分と固定費部分からなる準変動費である。過去のデータから，最小二乗法（単回帰分析）によって変動費率と固定費を推定する。過去のデータは下表のとおりである。

	第１期	第２期	第３期	第４期	第５期	第６期	第７期
直接作業時間（時間）	61	62	59	66	68	64	68
間接労務費（円）	400,800	402,900	396,700	411,400	415,500	407,100	415,500

＜設　問＞

１．間接労務費について，付記事項のデータにもとづき，Excel によって(1) 直接作業時間あたり変動費と(2) 固定費を求め，それぞれ小数第１位を四捨五入して，解答欄に整数で記入しなさい。

２．設問１の結果と付記事項にもとづき，損益分岐点販売量を求め，小数第１位を切り上げ，解答欄に整数で記入しなさい。

３．設問１の結果と付記事項にもとづき，目標利益 500,000 円を達成する販売量を求め，小数第１位を切り上げ，解答欄に整数で記入しなさい。

４．設問２と設問３の結果にもとづき，損益分岐点比率を求め，％表示で小数第２位を四捨五入し，解答欄に小数第１位までを記入しなさい。

設備投資の採算性計算

第５問　株式会社アオバ工業は，製造用機械の投資を検討している。下記の設問に答えなさい。(20 点)

＜付記事項＞

１．投資対象の機械の耐用年数は３年である。
　取得原価 12,000,000 円（購入代価，設置費を含む）

２．販売の見通し

	１年度	２年度	３年度
販売単価（円/個）	4,200	4,400	4,100
販売量（個）	11,000	10,000	11,000

３．現金支出原価

変動費率（%）	70
固定費（円/年間）	6,400,000

　このデータは毎年変わらないものとする。また，製造量と販売量は等しいと仮定する。

４．減価償却は定額法による。この機械の残存価額は 1,200,000 円，３年度終了後 800,000 円で売却できるものとする。また，売却に際し費用はかからないものとする。

５．この設備投資にあたって，予備の運転資金 1,000,000 円を準備した。このうち２年度に 300,000 円と３年度に 500,000 円を当機械の修理のために支出すると見込んでいる。

６．資金調達源泉は自己資金，株式発行，借入金のみである。資本コスト率は加重平均資本コスト率を用いる（加重平均資本コスト率は，%表示での小数第２位を四捨五入し，小数第１位までの数値を用いること)。その内訳は以下のとおりである（ただし，借入金の構成比率は各自で判断すること)。なお，借入金の資本コストについては法人税率分のキャッシュフロー効果を考慮すること。

	各資本コスト率	構成比率
自己資金	10%	30%
株式発行	20%	20%
借 入 金	8%	？%

７．法人税率は 20%である。

＜設　問＞

１．限界利益の最も大きい年度を解答欄に記入しなさい。

２．計算した資本コスト率を割引率として，１年度～２年度のキャッシュフローの現在価値合計を計算し，円未満を四捨五入して，解答欄に整数で記入しなさい。

３．３年度に当設備を売却した際の売却益または売却損を計算したうえで，その金額について支払うべき法人税額計算し，円未満を四捨五入して，解答欄に整数で記入しなさい。

４．３年度までのキャッシュフローにもとづき，下の下線付き文章の【(1)】内部利益率を求め，%表示での小数第３位を四捨五入し，小数第２位までを解答欄に記入しなさい。また，【(2)】内の「ア」と「イ」のうち正しいものを選び，解答欄にその記号を記入しなさい。

内部利益率が【(1)】%なので，この投資案は【(2) ア．採用してもよい　イ．採用すべきでない 】。

【禁無断転載】

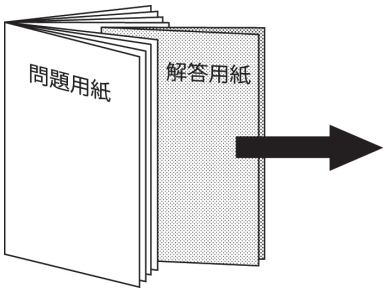
受験番号

第45回コンピュータ会計能力検定試験
解　答　用　紙

1　級

（令和 4 年 12 月 10 日施行）

■この解答用紙は，試験担当者の指示にしたがって，抜き取ってください。
■解答は，すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。



主　催　公益社団法人　全国経理教育協会
後　援　文　部　科　学　省

解答用紙は，試験担当者の指示にしたがって，抜き取ってください。

主催　公益社団法人　全国経理教育協会　　後援　文部科学省

第45回コンピュータ会計能力検定試験　解答用紙

1　級

試験会場	得点

氏名	受験番号

資金管理

第1問（20点）

資金管理

1	円
2	
3	
4	円
5	円

利益計画

第2問（20点）

利益計画

1	円
2	円
3	円
4	円
5	円

第３問（20点）

1	（１）	（２）	
	円	%	
2	（１）	（２）	（３）
	個	円	%

第４問（20点）

1	（1）	円/時間	（2）	円
2	個			
3	個			
4	%			

設備投資の採算性計算

第５問（20点）

1	年度			
2	円			
3	円			
4	（1）	%	（2）	

設備投資の採算性計算

解答用紙は，試験担当者の指示にしたがって，抜き取ってください。

第 45 回コンピュータ会計能力検定試験

標 準 解 答 ・ 採 点 基 準

1 級

（令和 4 年 12 月 10 日施行）

主　催　公益社団法人　全国経理教育協会
後　援　文　部　科　学　省

主催　公益社団法人　全国経理教育協会　　後援　文部科学省

第45回コンピュータ会計能力検定試験　標準解答

1　級

試験会場	
氏名	受験番号

得点

資金管理

資金管理

第1問（20点）

1	15,701,710	円
2	11月，12月	
3	1月，3月	
4	12,351,500	円
5	12,251,440	円

（各４点，２，３はすべてそろって４点）

利益計画

利益計画

第2問（20点）

1	−823,820	円
2	1,922,880	円
3	1,055,590	円
4	55,530,600	円
5	12,635,960	円

（各４点）

第３問（20点）

1	（１）	（２）	
	8,700,000 円	50 %	
2	（１）	（２）	（３）
	450 個	4,179,300 円	25 %

（各４点）

第４問（20点）

1	（１）	2,096 円/時間	（２）	272,988 円
2		88 個		
3		128 個		
4		68.8 %		

（各４点）

設備投資の採算性計算

第５問（20点）

1		1 年度		
2		10,943,785 円		
3		0 円		
4	（１）	23.85 %	（２）	ア

（各４点，４は（２）のみ正解は０点。）

設備投資の採算性計算